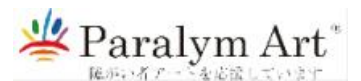




2025年3月期 中間期決算説明会

2024年11月15日



昭和産業株式会社 (<https://www.showa-sangyo.co.jp>)

- 1** 2025年3月期中間期 業績
- 2 2025年3月期 業績予想
- 3 「中期経営計画23-25」進捗
- 4 その他トピックス

2025年3月期中間期 業績ハイライト

売上高

1,685億円

減収 ▲70億円
増減率 ▲4.0%

営業利益

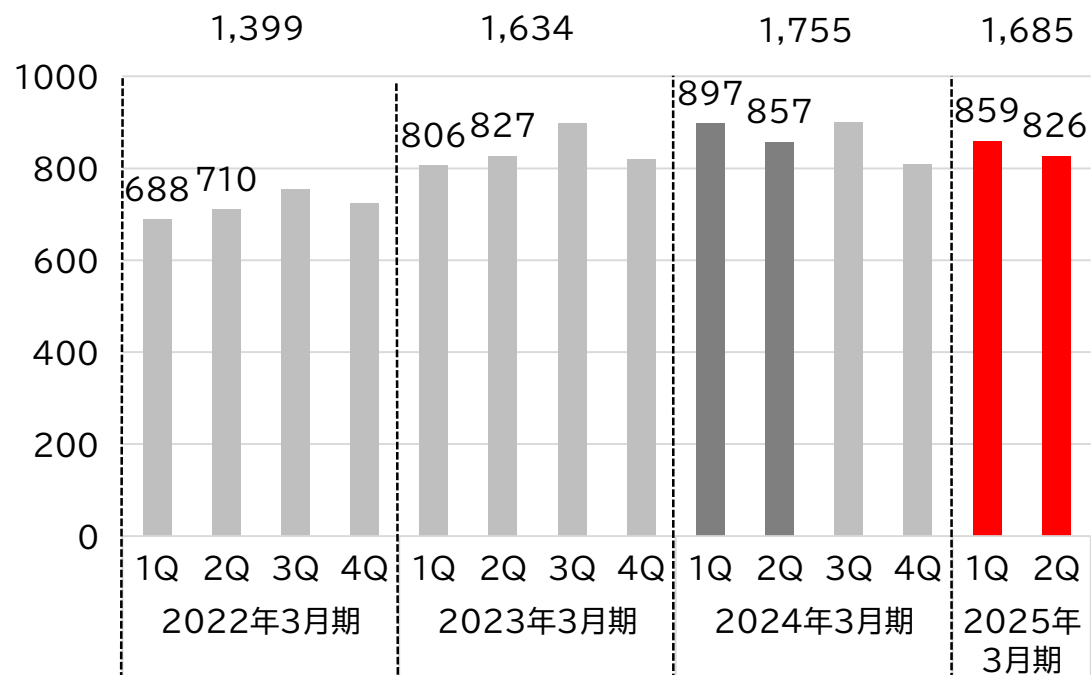
68億円

減益 ▲4億円
増減率 ▲6.6%

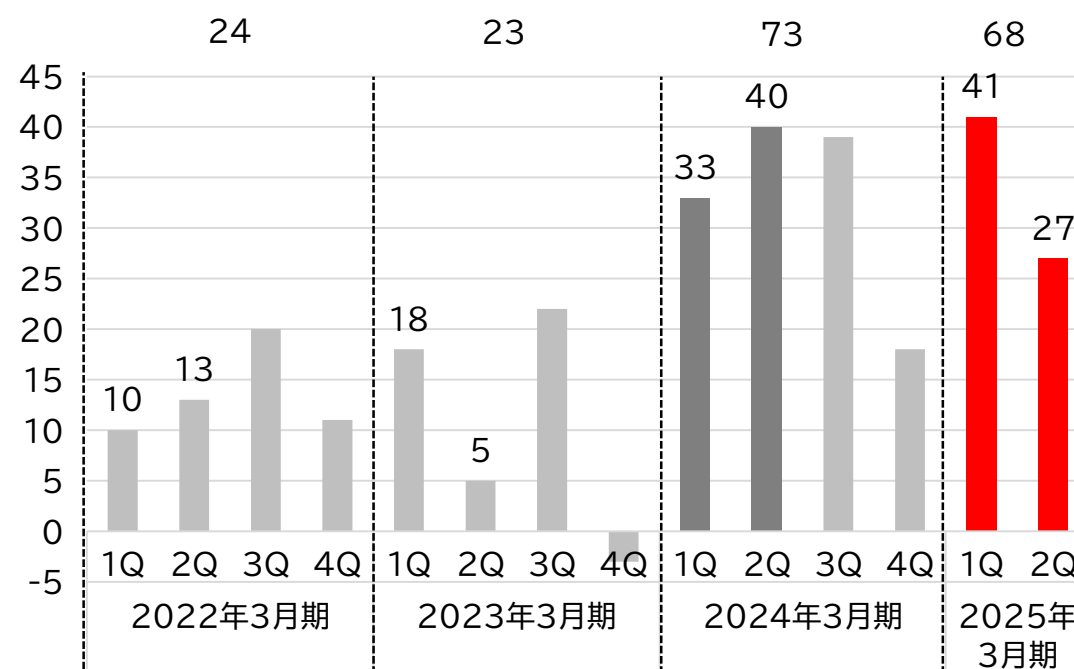
- ・販売数量は増加するも原料価格下落に伴う販売価格の低下により減収

- ・販売数量は増加するも販売価格でのマイナス分と売上原価でのプラス分がほぼ相殺
- ・人件費および物流費等の販管費増加により減益

(単位:億円)



(単位:億円)



2025年3月期中間期 業績ハイライト

売上高

1,685億円

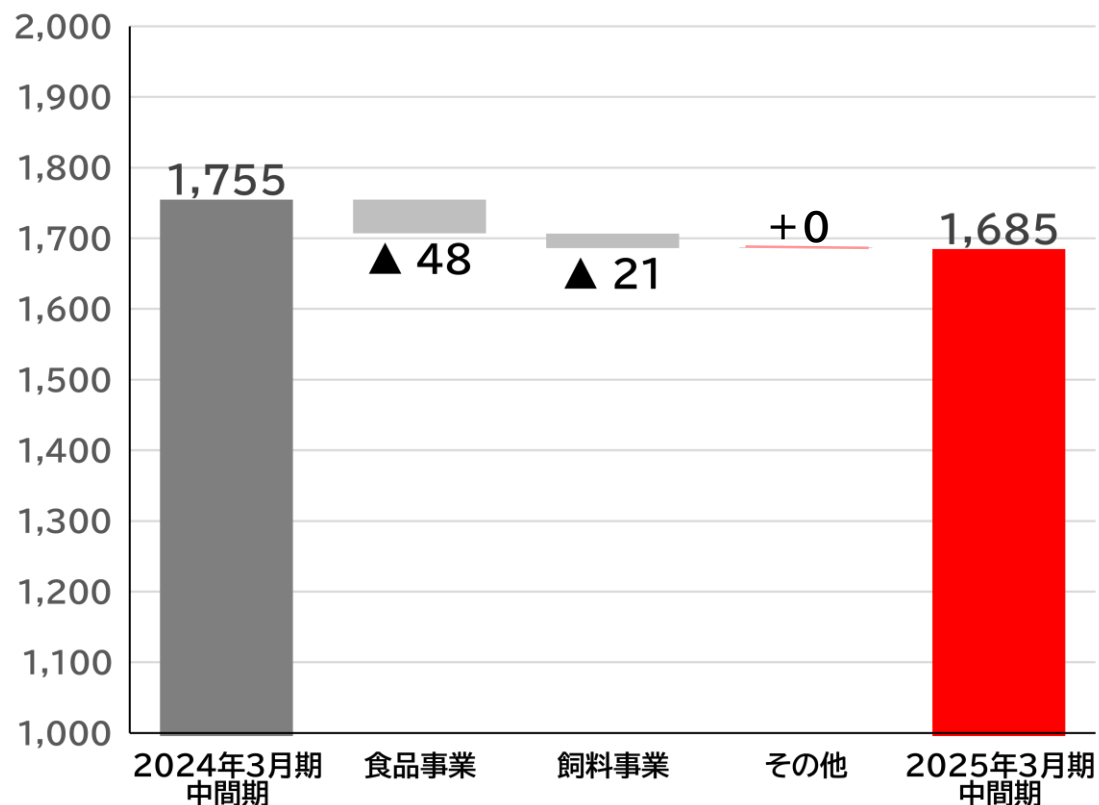
減収
増減率 ▲70億円
▲4.0%

営業利益

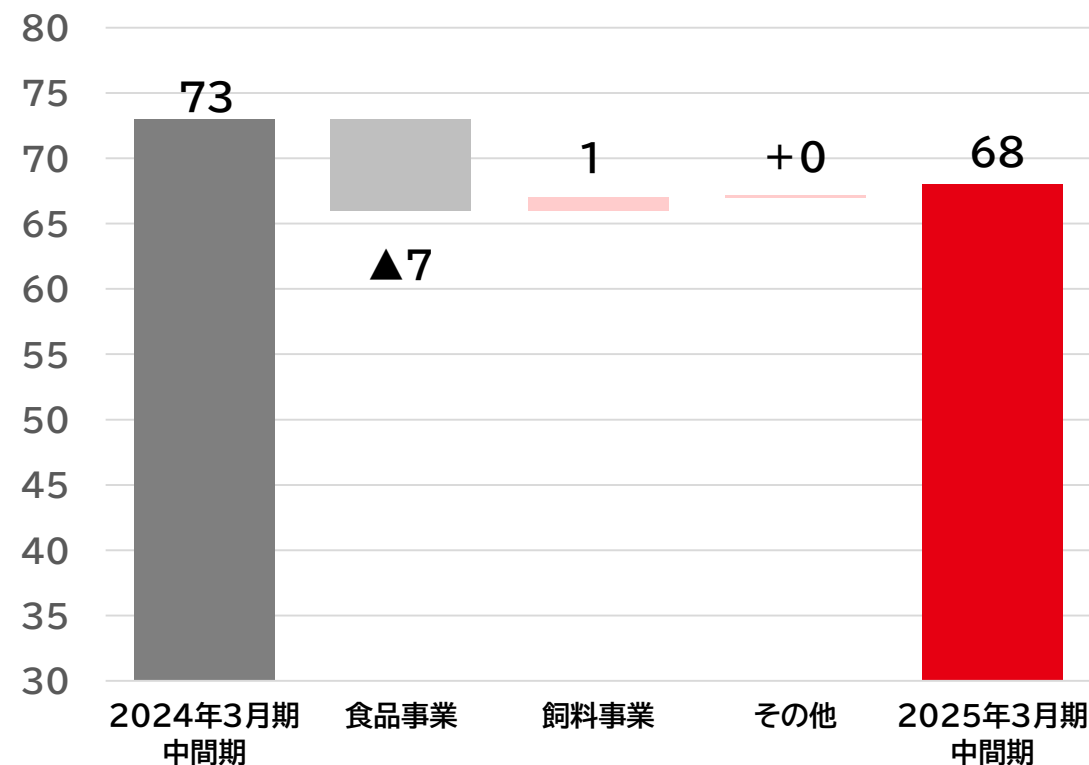
68億円

減益
増減率 ▲4億円
▲6.6%

(単位:億円)



(単位:億円)



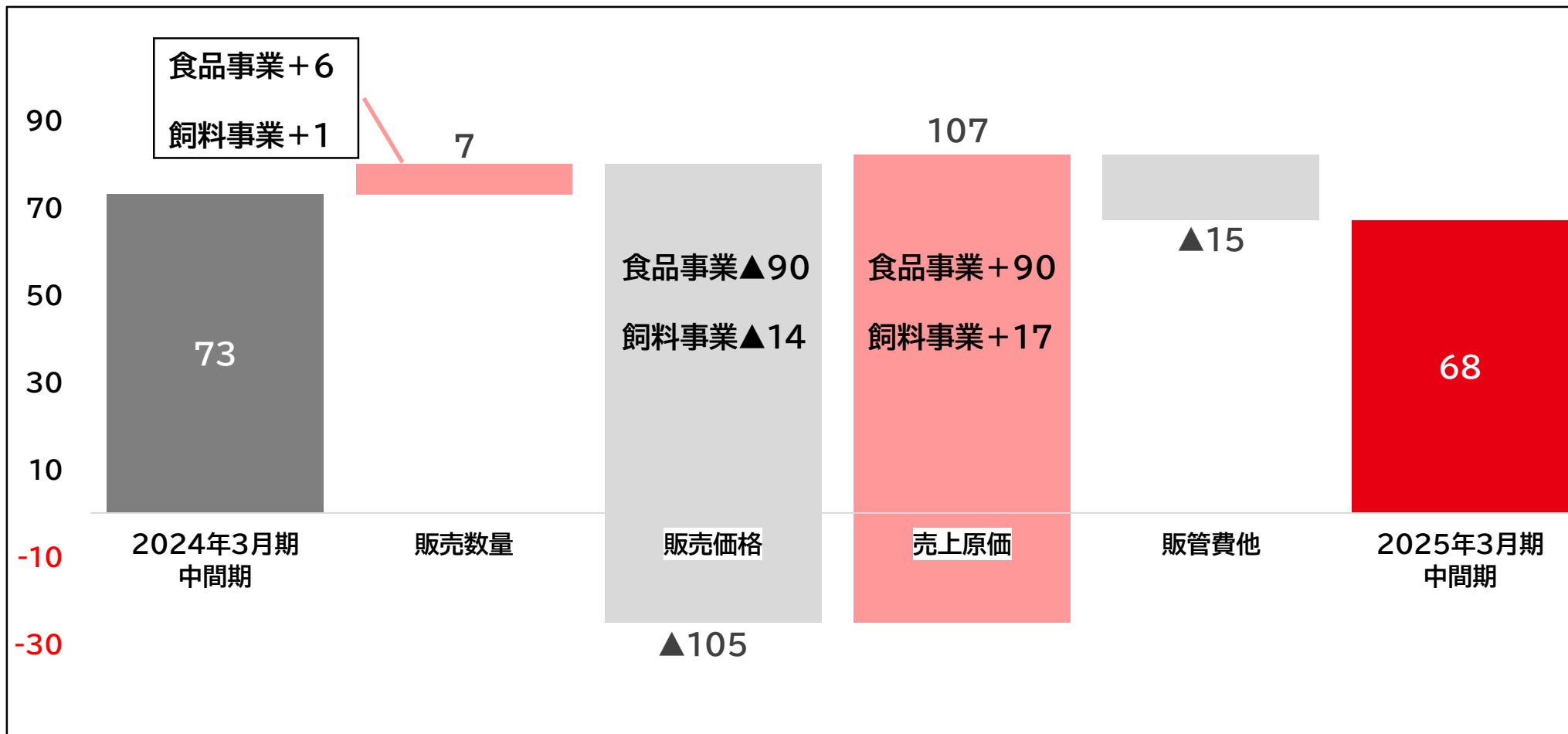
2025年3月期中間期 営業利益の増減要因

営業利益

2025年3月期中間期 **68 億円**

前年差 **▲4 億円**

(単位:億円)



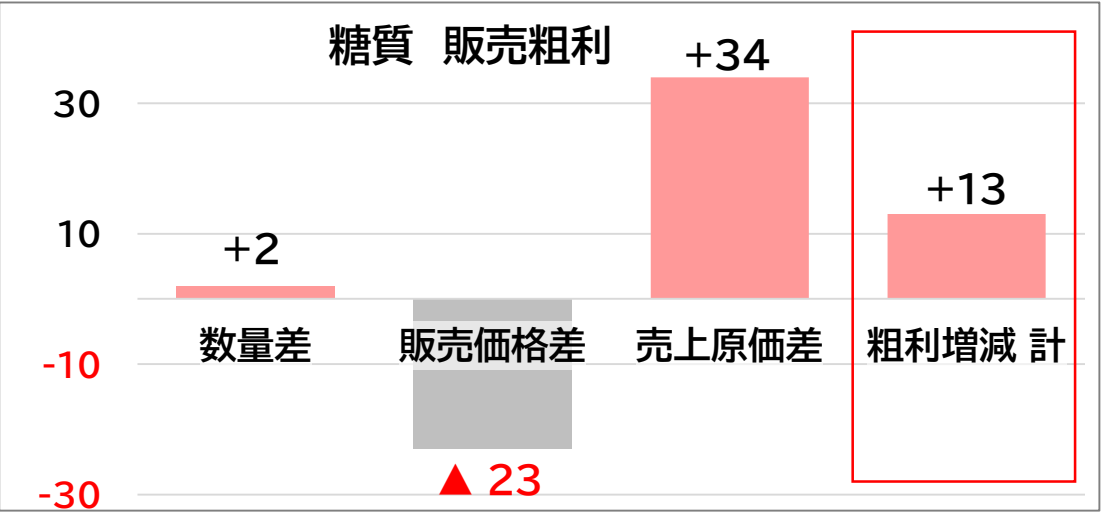
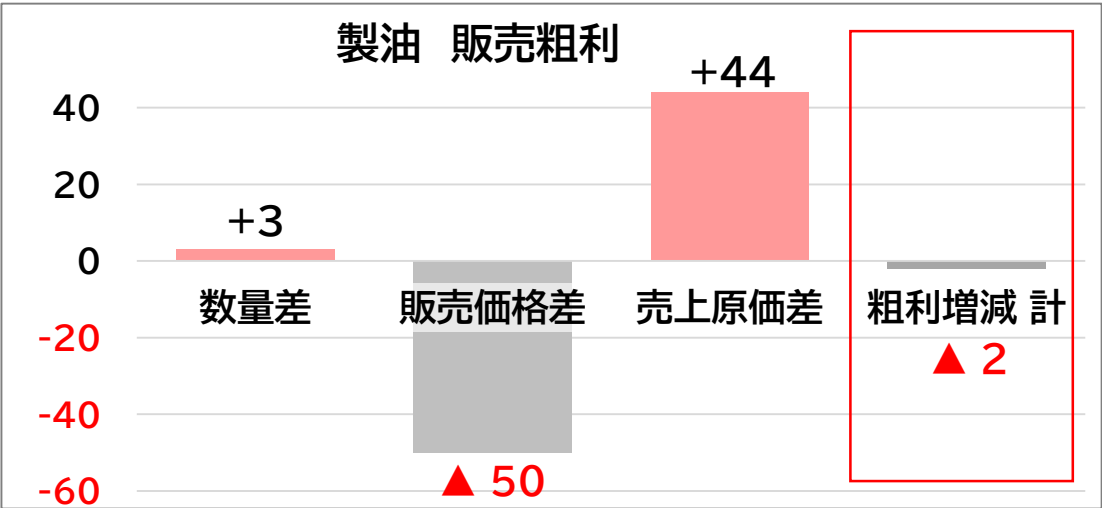
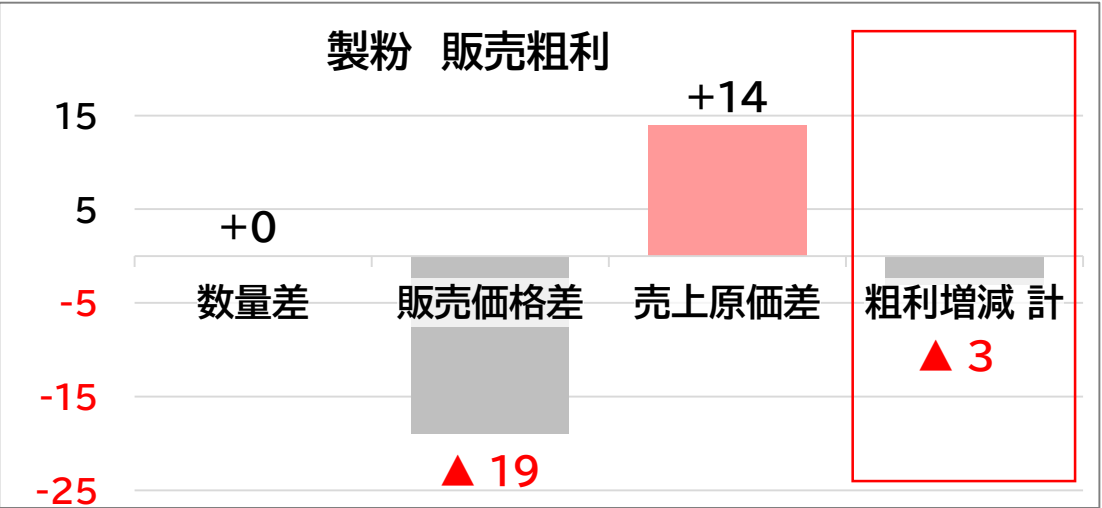
2025年3月期中間期 営業利益の増減要因(食品事業カテゴリ別)

食品事業営業利益

2025年3月期中間期 65 億円

前年差 ▲7 億円

(単位:億円)



販管費等差 ▲14億円

食品事業営業利益差 ▲ 7億円

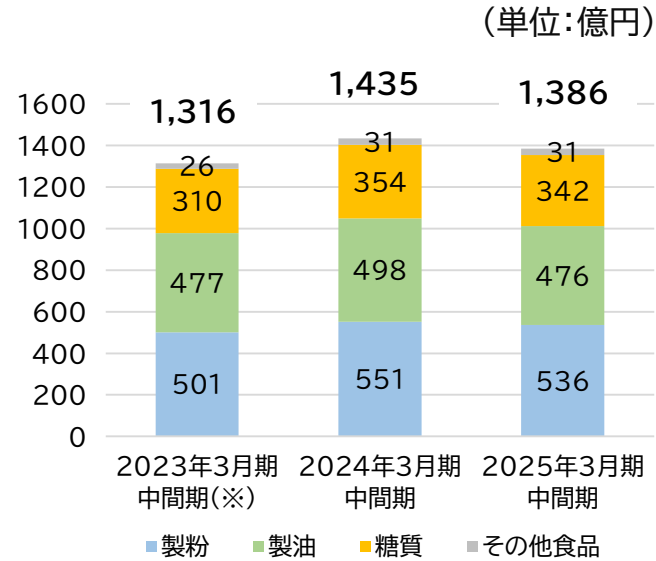
2025年3月期中間期 セグメント別売上高・営業利益

食品事業 売上高

2025年
3月期中間期 **1,386億円**

前年差 **▲48億円**

増減率 **▲3.4%**



輸入小麦の政府売り渡し価格の引き下げのほか、主原料価格の下落により販売価格が前年同期を下回り、減収

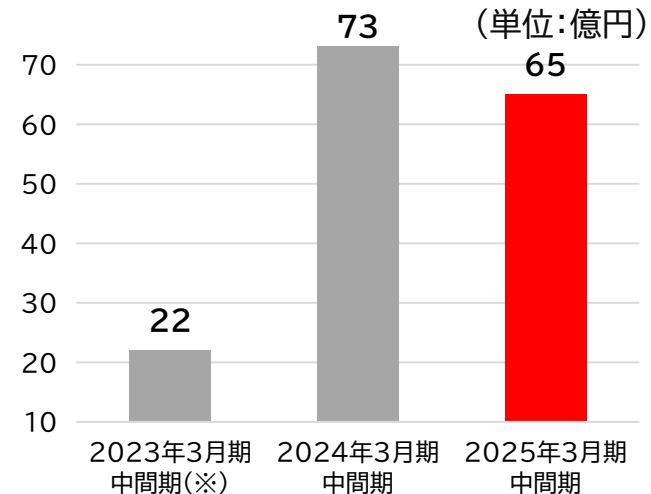
売上高	2024年 3月期中間期	2025年 3月期中間期	前年差	増減率	1Q前年差 (4-6月)	2Q前年差 (7-9月)
製粉	551	536	▲14	▲2.7%	▲8	▲6
製油	498	476	▲21	▲4.4%	▲6	▲15
糖質	354	342	▲11	▲3.3%	▲7	▲4
その他食品	31	31	0	0.8%	▲1	1
食品事業合計	1,435	1,386	▲48	▲3.4%	▲23	▲24

食品事業 営業利益

2025年
3月期中間期 **65億円**

前年差 **▲7億円**

増減率 **▲10.3%**



需要回復とその好機を捉えた販売施策の実行により、販売数量は前年同期を上回るも、販管費の影響が大きく、減益

営業利益	2024年 3月期中間期	2025年 3月期中間期	前年差	増減率	1Q前年差 (4-6月)	2Q前年差 (7-9月)
食品事業	73	65	▲7	▲10.3%	6	▲13

※2024年3月期から会計セグメントを変更しており、2023年3月期は新セグメントに合わせ算出した数値を掲載しています。

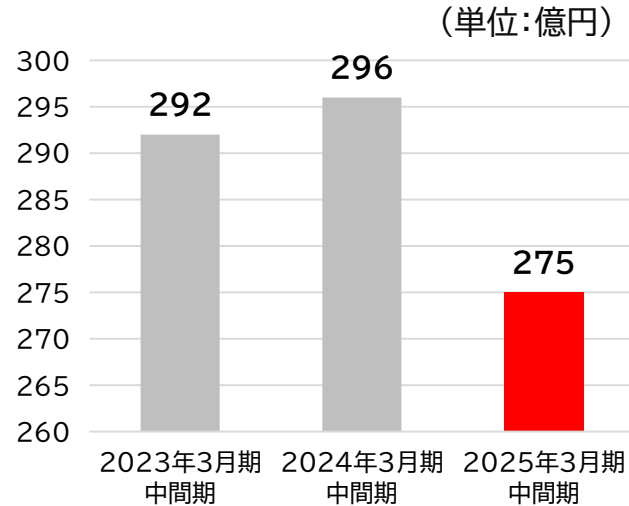
2025年3月期中間期 セグメント別売上高・営業利益

飼料事業 売上高

2025年
3月期中間期 **275億円**

前年差 **▲21億円**

増減率 **▲7.3%**



原料価格下落に伴い配合飼料の販売価格が前年を下回ったこと、鶏卵需給の緩和により鶏卵相場が軟調に推移したことで、減収

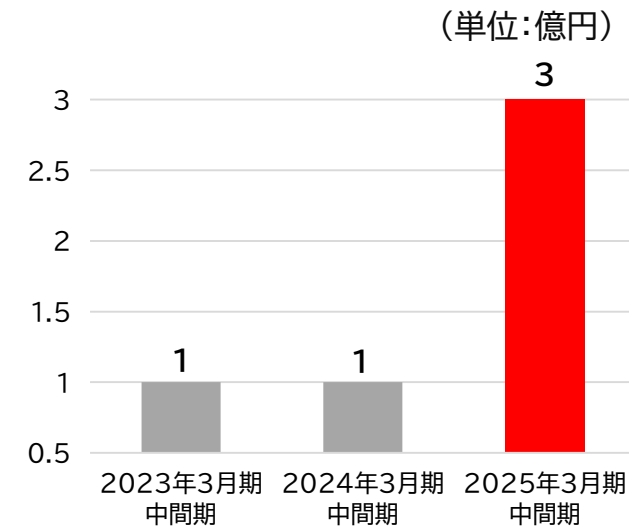
売上高	2024年 3月期中間期	2025年 3月期中間期	前年差	増減率	1Q前年差 (4-6月)	2Q前年差 (7-9月)
飼料事業	296	275	▲21	▲7.3%	▲15	▲6

飼料事業 営業利益

2025年
3月期中間期 **3億円**

前年差 **+1億円**

増減率 **+166.0%**



鶏インフルエンザ発生農場での鶏卵生産が回復したことで、配合飼料および鶏卵の販売数量が前年同期を上回り、増益

営業利益	2024年 3月期中間期	2025年 3月期中間期	前年差	増減率	1Q前年差 (4-6月)	2Q前年差 (7-9月)
飼料事業	1	3	1	166.0%	1	0

連結貸借対照表／連結キャッシュ・フロー

■連結貸借対照表 (単位:億円)

項目	2024年3月末	2024年9月末	増減
資産合計	2,622	2,583	▲39
流動資産	1,227	1,198	▲28
固定資産	1,394	1,384	▲10
負債合計	1,289	1,234	▲55
有利子負債	533	571	38
その他負債	756	662	▲94
純資産合計	1,332	1,349	16

■連結キャッシュ・フロー (単位:億円)

項目	2024年3月期 中間期	2025年3月期 中間期	増減
営業キャッシュ・フロー	105	77	▲27
投資キャッシュ・フロー	▲67	▲48	18
有形固定資産の取得	▲49	▲74	▲25
有形固定資産の売却	0	29	29
その他	▲17	▲3	14
フリー・キャッシュ・フロー	38	28	▲9
財務キャッシュ・フロー	▲19	▲14	5
現金及び現金同等物の期末残高	80	95	14

<主な要因>

- 営業CF
 - (+)売上債権の減少
 - (-)棚卸資産の増加、仕入債務の減少、法人税等の支払
- 投資CF
 - (-)有形固定資産の取得
 - (+)有形固定資産の売却
- 財務CF
 - (-)フリー・キャッシュ・フローを原資に自己株式の取得・消却を実施
(取得株式総数 99万株、取得価額 34億円)

原価に与えるコスト要素

■コスト環境【原料・為替・エネルギー】

- ・原料穀物相場は、昨年実績と比較すると軟調に推移
- ・エネルギー価格(海上運賃、LNG)は上昇傾向
- ・為替相場は円安傾向

		2024年3月期(実績)				2025年3月期(実績)		10-3月 前提	(参考) 2025年3月期 期首前提
		4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月		
小麦※1	円/t	72,530	76,750	76,750	68,240	68,240	67,810	67,810	68,460
大豆※2	¢/Bu	1,501	1,440	1,333	1,295	1,171	1,168	995	1,235
菜種※3	C\$/MT	793	745	748	657	609	632	585	625
トウモロコシ※4	¢/Bu	653	592	479	463	429	430	400	490
海上運賃※5	us\$/t	53.0	48.9	59.8	62.7	62.3	62.3	65.0	63.0
為替※6	円/us\$	133.39	140.04	147.35	146.87	150.96	157.44	147.00	146.00
LNG※7	円/kg	103.2	75.8	89.1	98.8	94.8	93.8	96.4	93.2

※1:該当期間3か月前の5銘柄平均価格 ※2:該当期間の2か月前のシカゴ相場平均 ※3:該当期間の2か月前のICE相場平均
 ※4:該当期間の2か月前のシカゴ相場平均 ※5:米国ガルフ-ジャパンのパナマックス船(トウモロコシベース) ※6:該当期間の2か月前のTTM平均
 ※7:該当期間の2か月前の「財務省貿易統計」月間の実績速報値 より、本国の輸入品価額・数量から平均単価を算出

- 1 2025年3月期中間期 業績
- 2 2025年3月期 業績予想**
- 3 「中期経営計画23-25」進捗
- 4 その他トピックス

2025年3月期 業績予想

- ・売上高は、3,460億円とほぼ前年並みを予想
- ・営業利益は、120億円と物流費の上昇、人件費の増加などにより、前年同期比11億円の減益

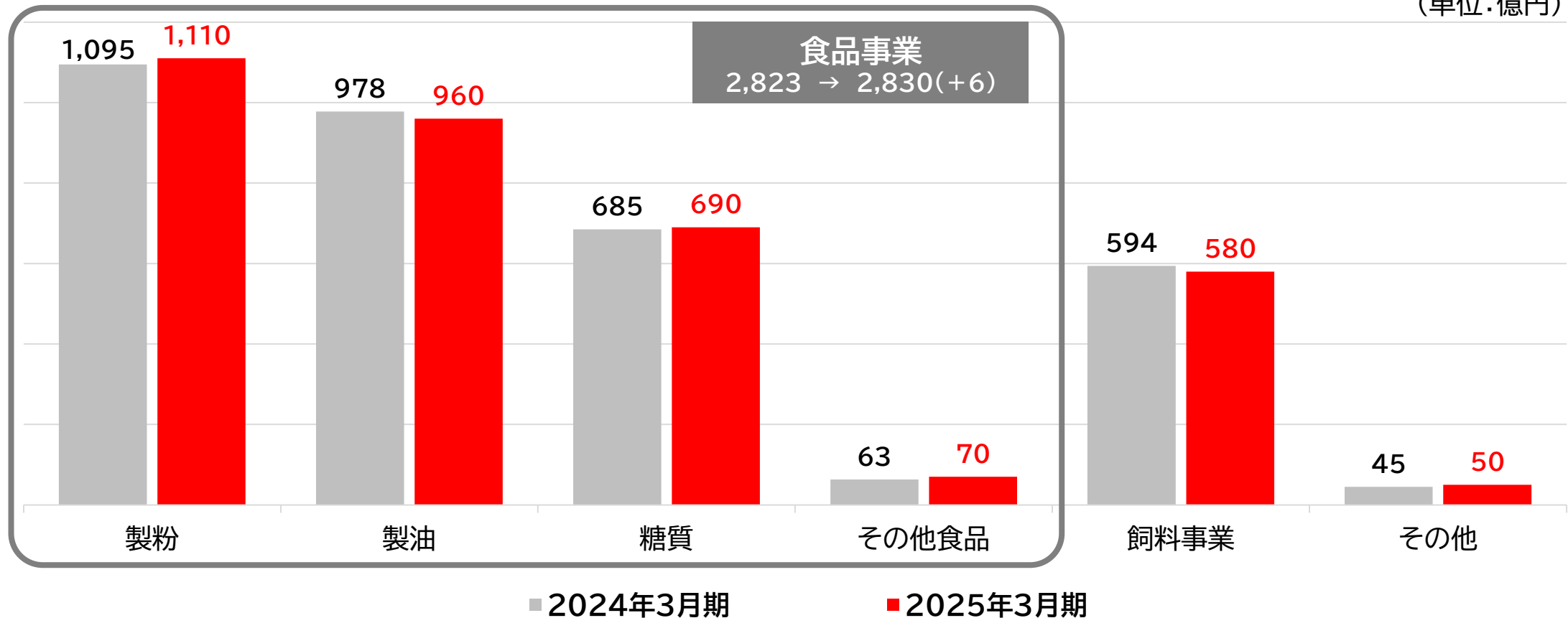
(単位:億円)		2024年3月期	2025年3月期 (予想)	増減 (前期比)	増減率 (前期比)
売上高	食品	2,823	2,830	6	
	飼料	594	580	▲14	
	その他	45	50	4	
	計	3,463	3,460	▲3	▲0.1%
営業利益	食品	128	115	▲13	
	飼料	7	8	1	
	その他	13	13	0	
	全社費用他	▲17	▲17	—	
	計	131	120	▲11	▲8.7%
経常利益		165	130	▲35	▲21.5%
当期純利益		123	110	▲13	▲11.0%

2025年3月期 業績予想(売上高・カテゴリ別)

売上高予想

2024年3月期 3,463 億円 ⇒ 2025年3月期 3,460 億円 (前年差 ▲3 億円)

(単位:億円)



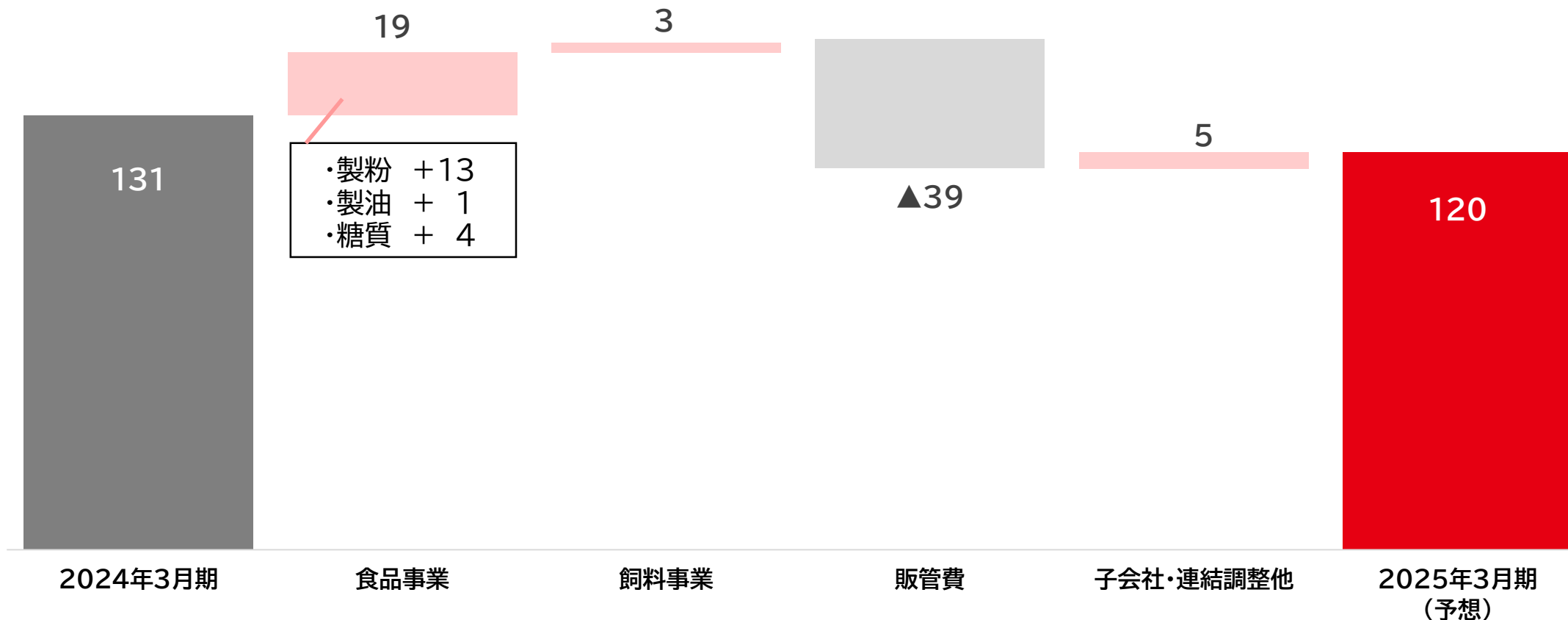
2025年3月期 業績予想(営業利益)

営業利益

2025年3月期予想 **120 億円**

前年差 **▲11 億円**

(単位:億円)



- 1 2025年3月期中間期 業績
- 2 2025年3月期 業績予想
- 3 「中期経営計画23-25」進捗**
- 4 その他トピックス

「中期経営計画23-25」5つの基本戦略

① 基盤事業の強化

1. 穀物ソリューションの進化
ーワンストップ型営業組織への変革による
販売力強化
2. グループ連携による事業拡大と収益力強化
3. 商品構成の最適化
4. 差別化戦略による付加価値商品の拡販
5. 安定調達の強化

② 事業領域の拡大

1. ASEAN地域における既存事業の強化と
新たな事業展開による海外事業の拡大
2. 輸出事業の強化
3. 冷凍食品事業の拡大
4. 新規事業への挑戦
ープラントベースフード(植物由来食品)
ーファインケミカル、オレオケミカル

当社グループの持続可能を支えるサステナビリティ経営の深化

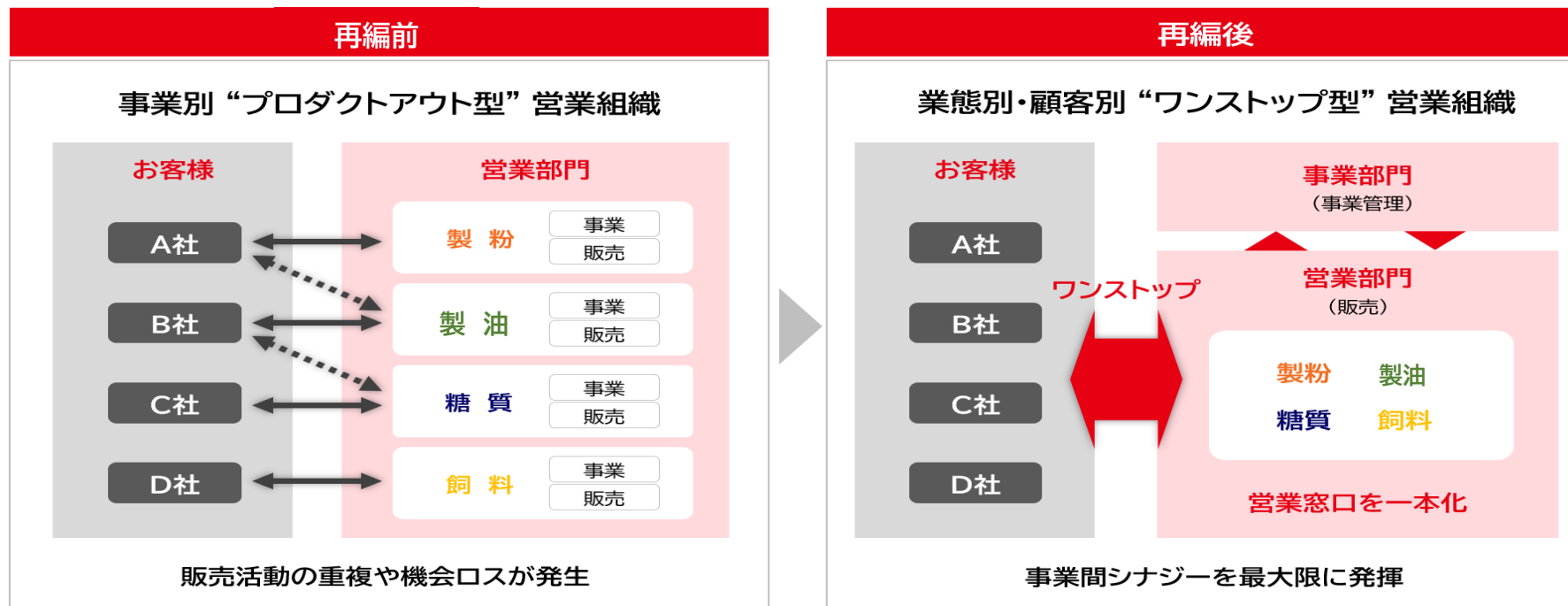
③ 環境負荷の低減

④ プラットフォームの再構築

⑤ ステークホルダー エンゲージメントの強化

穀物ソリューションの進化 – 創業以来の抜本的営業組織改編 –

“多様な事業ポートフォリオ”を最大限に生かして、お客様ごとに、最適なソリューションを提供



新規取引件数(※)

※既存取引先への新たな取引を含む



改編前比

196%

UP

付加価値商品販売量

●国産小麦粉



改編前比

131%

UP

●機能性油脂(半流動性油脂)



改編前比

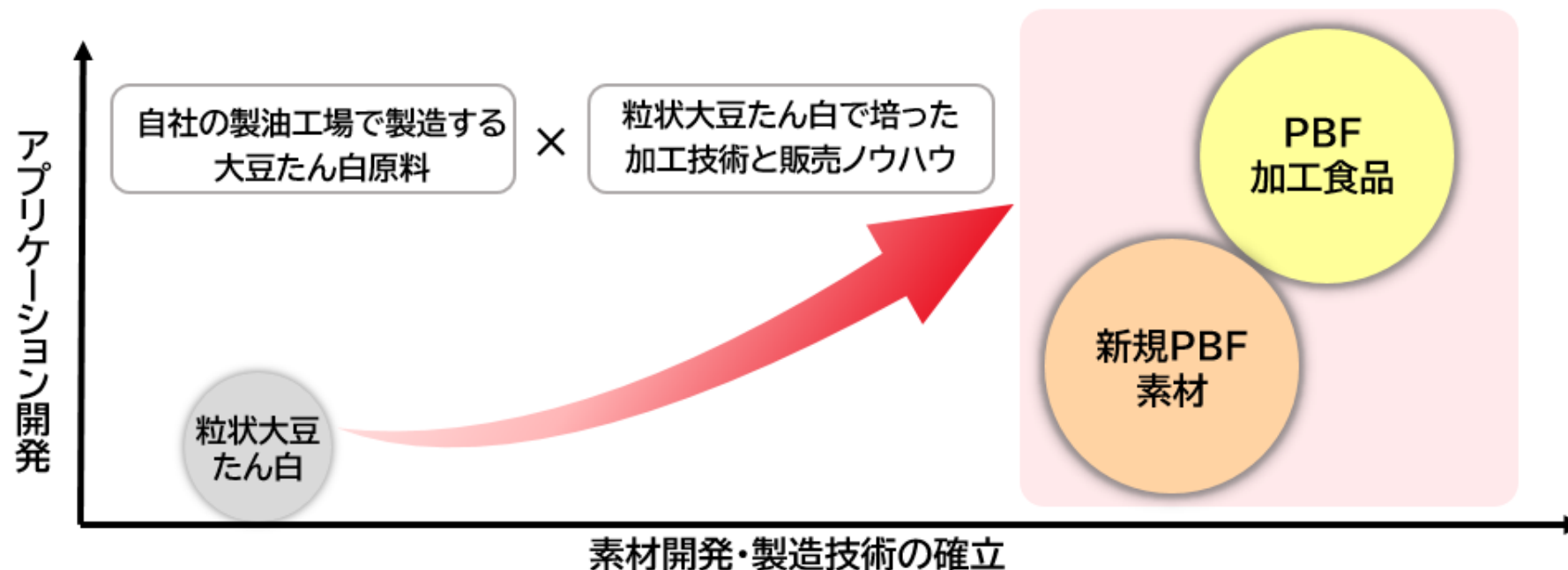
152%

UP

新規事業への挑戦

新たな付加価値商品の研究・開発を強化し、将来の収益基盤となる新規事業を推進

①プラントベースフード事業 新たな素材や用途の開発により、国内外で拡大する需要を的確に捕捉



②ファインケミカル事業 こめ、大豆、ひまわり由来の機能性素材開発により、健康食品分野、化粧品分野を強化

③オレオケミカル事業 こめ油、ひまわり油の製造過程で発生する副産物を活用したオレオケミカル事業を推進

①植物性食材の新ブランド「SOIA SOIYA (ソイアソイヤ)」

食の多様性、サステナブル、健康志向の高まりで注目される植物性食材
肉の単なる「代替」というこれまでのイメージを覆す、大豆たん白新商品を提案

**SOIA
SOIYA**

“思いのまま”ができる食材



HMSP (High moisture solution protein)



新規事業への挑戦

②事業領域の拡大を推進

こめ油 副産物



スーパービタミンE
ビタミンE
パラフィン
ステロール
スクワレン
脂肪酸(非可食)
油脂

反応分離技術
イオン交換樹脂法



プロトタイプのプロント
(2020年稼働)

スーパービタミンE
(食品・化粧品)

高純度試薬



ビタミンE
(食品・化粧品)

サプリメント



バイオパラフィン
(化粧品)



植物ステロール
(食品・化粧品)

食品・化粧品素材



バイオ燃料
(発電用・軽油代替)

発電用燃料



イオン交換樹脂法を活用したこめ油副産物からの機能性素材製造

- 1 2025年3月期中間期 業績
- 2 2025年3月期 業績予想
- 3 「中期経営計画23-25」進捗
- 4** その他トピックス

大阪・関西万博の会場整備参加サプライヤーとして協賛

協賛 1

穀物の一次加工で発生する副産物

【原料】
菜種、トウモロコシ



【副産物】
菜種粕、コーングルテンミール



【成型イメージ】
板状に成型



協賛 2

バイオマスを配合したごみ袋 「大地のMino-Re:」



魔法シリーズ10周年 電車ジャック広告を実施

魔法シリーズ「おいしく焼ける魔法のお好み焼粉」
10周年を記念し、電車ジャック広告を実施！



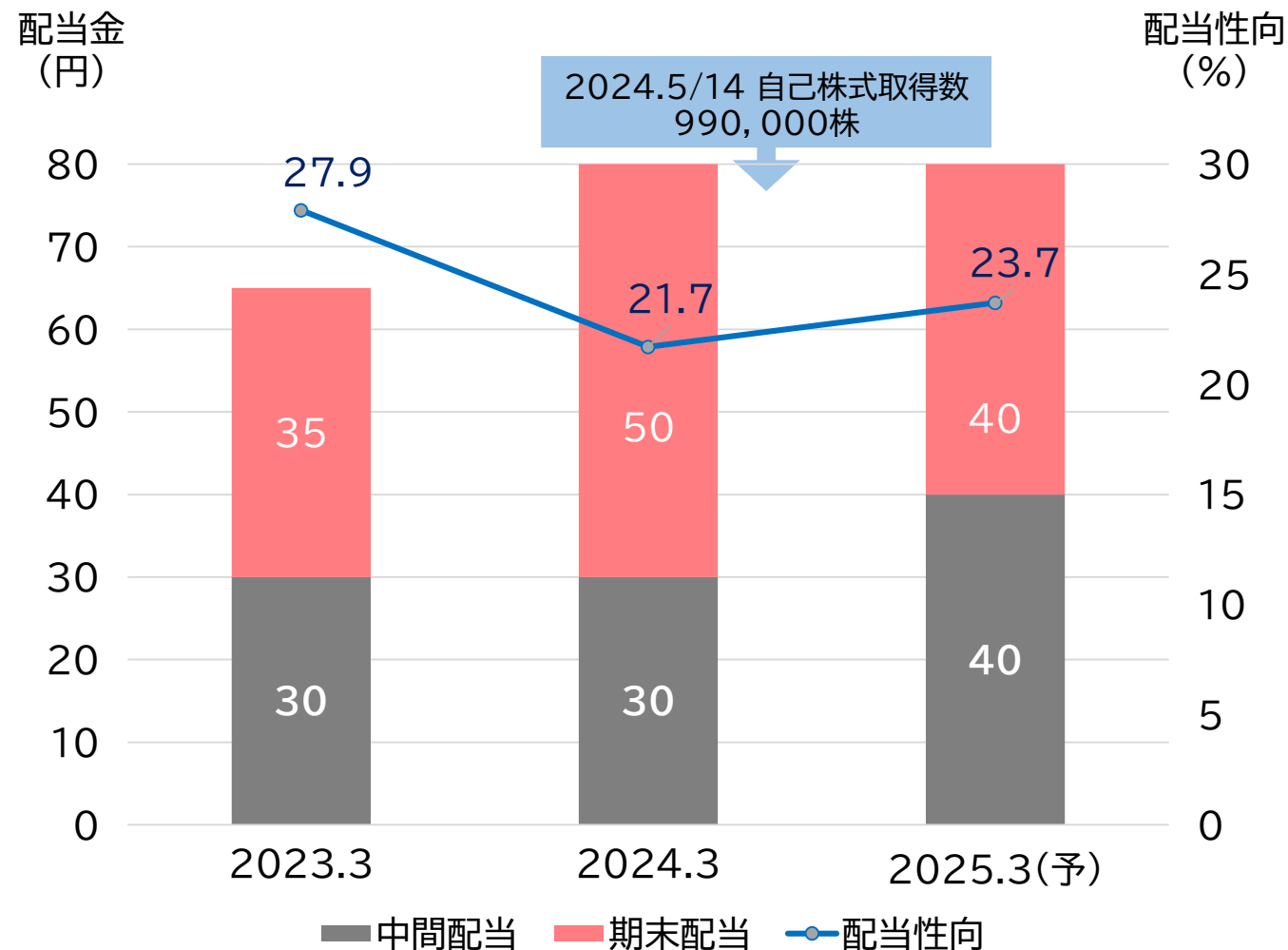
JR京浜東北線・根岸線(1編成)

参考資料

株主還元について

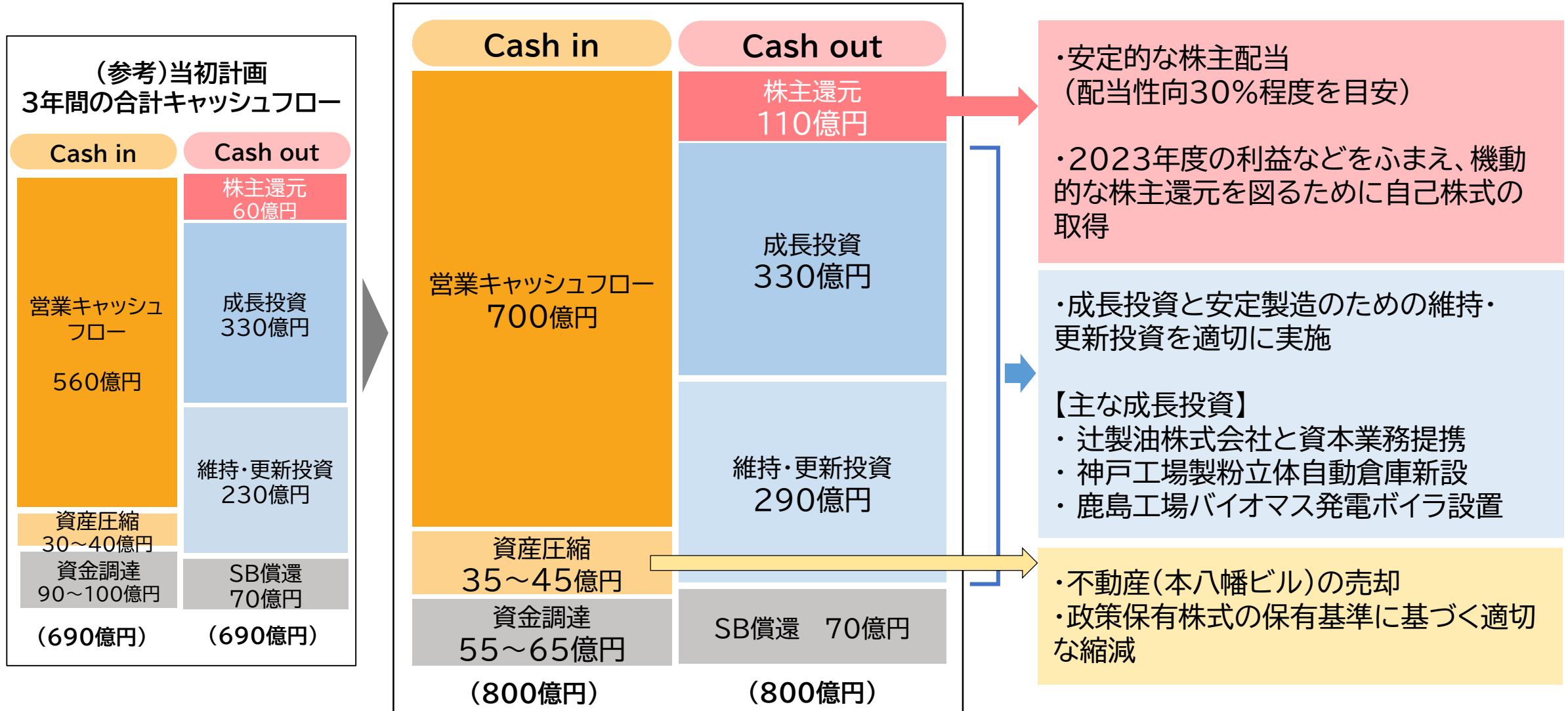
(利益の配分)

将来の企業成長に必要な投資と株主還元の充実を意識しながら
配当性向30%程度を目安に
安定的な配当を継続



資金配分計画〔3年間累計〕（2023年度～2025年度）

2023年度(2024年3月期)の実績および2025年3月期の見通し、ならびに資本政策をふまえて資金配分計画を見直し



設備投資および研究開発費

基盤事業の強化のための投資や成長領域への戦略的な投資を実施し、グループの持続的な成長を推進

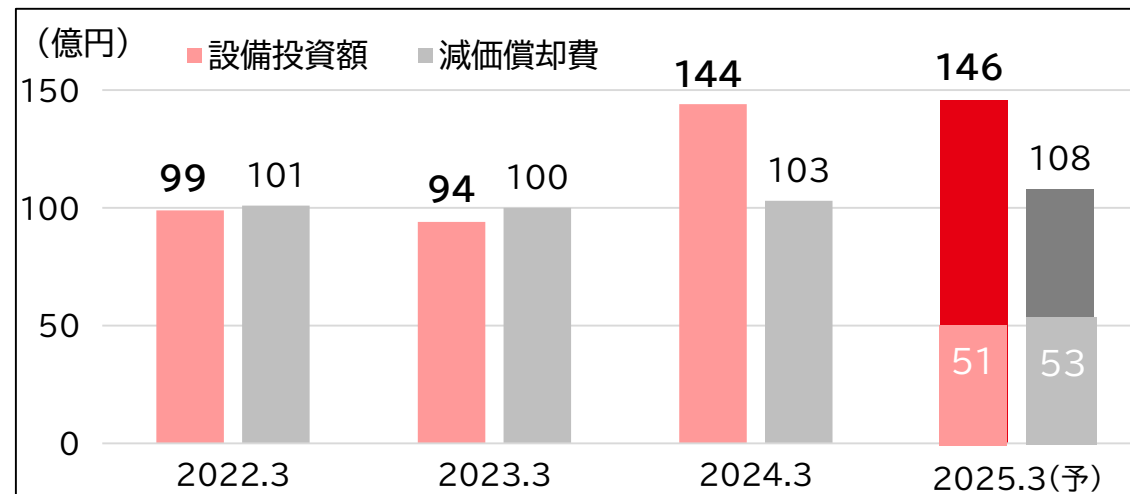
主な設備投資の内容(2025年3月期)

■成長投資

- ①製粉立体自動倉庫更新工事(2026年2月稼働予定)
→物流機能の改善・効率化
- ②バイオマス発電ボイラ新設(2026年度稼働予定)
→約3.7万トン/年のCO2排出削減見込み

■維持・更新投資

- ・油脂精製設備更新
- ・サンエイ糖化(株)設備更新



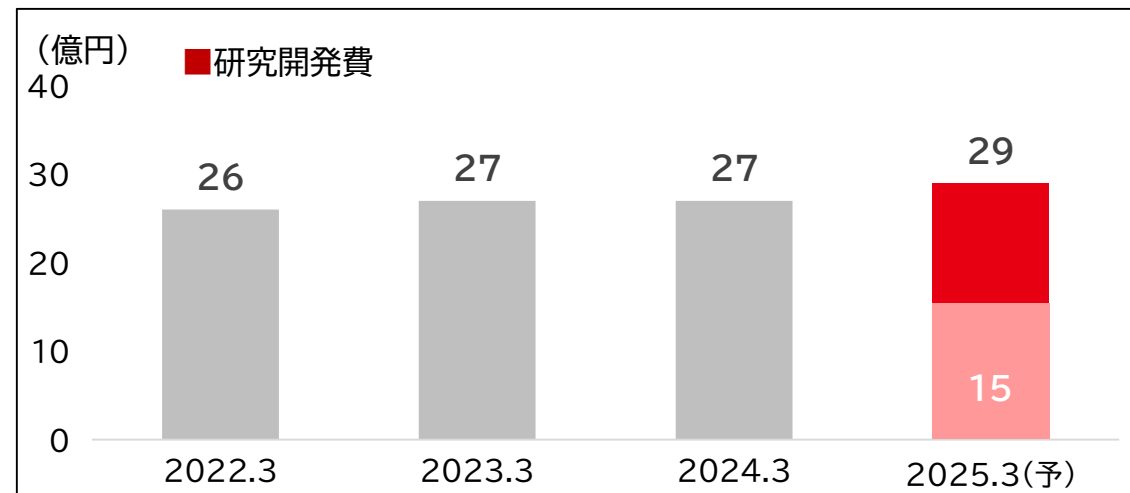
主な研究開発の内容(2025年3月期)

■基盤事業の強化

- ・CVS、外食をはじめとする多数のアプリケーション開発
- ・新たな機能性をもつ小麦粉、油脂、糖質などの素材の高付加価値化に向けた研究開発の強化

■事業領域の拡大

- ・プラントベースフードの開発強化
- ・機能性素材の開発
- ・化粧品分野への用途拡大に向けた研究開発



環境目標	中計目標	昭和産業グループ 環境目標
CO2排出量削減	▲30%以上 〔2013年度対比〕	2030年度 ▲46%以上
食品ロスの削減	▲30%以上 〔2018年度対比〕	2025年度 ▲30%以上
水使用量削減 (原単位)	▲9%以上 〔2019年度対比〕	2030年度 ▲12%以上
プラスチック 使用量削減(原単位)	▲7%以上 〔2013年度対比〕	2030年度 ▲25%以上

デジタル戦略	中計目標
デジタル化推進	・デジタル化推進費:3年間で45億円 (うち成長投資:12億円)
【主要施策①】 多角的分析DB・ ダッシュボード導入	・顧客情報の有効活用による営業変革 (顧客分析→顧客提案の充実化) ・コスト削減:▲6千万円/年
【主要施策②】 DX推進人材育成	・将来のDX推進人材:100名育成 ・ノーコード開発ツールの展開による コスト削減:▲7千万円/年

人的資本経営	中計目標
D&Iの推進	・女性管理職比率: 2025年度 10%以上
戦略的 人的資本投資の促進	・リスク投資額: 2025年度 2倍以上(2021年度比)
従業員 エンゲージメントの向上	・エンゲージメントスコア: 中計23-25期間中に目標値公表

RD&E戦略	中計目標
事業領域の拡大	・冷凍食品事業、新規事業分野における 研究開発の強化 ・海外生産拠点の技術力向上
IT・AI技術の活用	・スマートファクトリーの推進
生産改善活動 によるコスト削減	・コスト削減額: 10億円以上/3年累計

四半期別 売上高・営業利益推移

(単位:百万円)		1Q			2Q			3Q			4Q		
		2024.3	2025.3	増減額	2024.3	2025.3	増減額	2024.3	2025.3	増減額	2024.3	2025.3	増減額
売上高	食品	73,665	71,315	▲2,350	69,864	67,377	▲2,486	73,545	—	—	65,252	—	—
	飼料	14,967	13,444	▲1,522	14,726	14,068	▲657	15,318	—	—	14,450	—	—
	その他	1,166	1,169	3	1,192	1,206	14	1,108	—	—	1,100	—	—
	合計	89,799	85,929	▲3,870	85,783	82,653	▲3,129	89,972	—	—	80,803	—	—
営業利益	食品	3,353	3,971	617	3,967	2,592	▲1,374	3,889	—	—	1,639	—	—
	飼料	▲7	112	120	126	204	78	197	—	—	396	—	—
	その他	302	385	82	357	351	▲5	352	—	—	307	—	—
	全社費用 他	▲336	▲350	▲14	▲412	▲400	12	▲471	—	—	▲516	—	—
	合計	3,313	4,118	805	4,039	2,748	▲1,290	3,966	—	—	1,827	—	—



穀物ソリューション・カンパニー

SHOWA

昭和産業グループ

見通しに関する注意事項

本資料は、現時点で入手可能な情報や、合理的と判断した一定の前提に基づいて策定した数値であり、潜在的なリスクや不確実性などを含んでいることからその達成や将来の業績を保証するものではありません。

また実際の業績等も本資料における見通し、計画等とは大きく異なる結果となる可能性がありますので、本資料のみに依拠して投資判断を下すことはお控え下さい。

なお、将来における情報・事象及びそれらに起因する結果にかかわらず、昭和産業グループは当中期経営計画を見直すとは限らず、またその義務を負うものではありません。